



子育て支援事業 小松社長が講演

川口市

中小企業労働福祉協会は24日、川口市で労働福祉講座を「子育て支援事業」をテーマに講演した。小松社長を講師に「『あったらいいな』から『あってよかった』へ」をテーマに講演した。

低成長期の三つに分け、職住環境や子どもと高齢者の比率が変わってきた過程を解説。「情報がどんどん増える半面、地域とのつながりが薄れ子育ての孤立化が深刻になった」とした上で、「それを解決するために会社を立ち上げた。当時は子育て支援で金もつけないとバッシングを受けた」ともあるが、今では国や自治体が主体となったさまざまな支援事業ができ、時代が後からついてきた感じ



だ」と歩みを振り返った。村田明理事長は「当協会では地域で活躍する労働者の社会福祉の充実や労働教育、労働相談に取り組んでいます。問題に対しては関係団体と連携し、地域社会の安心安全なまちづくりに向け取り組んでまいります」とあいさつした。

(青柳英昭)

